

サイクリング / 鈴木晴美さん(受講生)

「自転車の楽しみ方」

サイクリング講座に参加する前は、買ってまもないマウンテンバイクでどこか遠くに出かけたいという気持ちが先にたち、自分なりに自転車の基本はできていると思っていました。初回の講座で、効率的で、交通ルールに従った乗り方、走り方を知り、自転車が奥の深い乗り物だったことに衝撃を受けました。

基本を学んで長距離を走ること自信がついてきたら、後は実践あるのみ！講座から飛び出して、浜名湖一周サイクリング、三重県鈴鹿で行われた自転車の祭典にチームカレッジとして参加、狩野川サイクリングなどなど、週末自転車生活が楽しめたのも、自転車博士でとても世話好きな講師やスタッフ、好奇心旺盛な受講生の方々と知り会えたおかげです。

偶然にもカレッジ事務局の佐藤さんを招いた自転車に関する講演に参加したところ、ここ掛川が自転車乗りにも最適な場所、かつ、ガイドツアーが楽しさを倍増させていることを熱く語ってくれました。



想いおこせば、車では気付かなかった、東海道や塩の道という歴史街道に残る史跡名勝や、緑豊かな田園風景を見て、触って、五感を刺激しあい、目の前に続く登り坂に戦闘態勢で向かい、頂上で達成感に包まれつつ、広がる茶畑に歓声をあげたのも、一緒に走る同志とともにサイクリングのまち掛川を楽しめたからだ実感しています。掛川再発見への近道は、自転車にあり！残すところわずかとなった講座ですが、最後まで楽しく走りたいと思います。

フライフィッシング / テイウィット・リーランドさん(受講生)

「My first native Japanese trout」

My wife, Susanne and I moved to Kakegawa about 1-1/2 years ago for my work. Susanne was introduced to the staff of the Kakegawa Lifestyle Design College, Sato Yuichi, by a friend from the library. We decided to enroll in classes at the college. Susanne signed up for organic gardening and I chose fly fishing.

I was impressed by the many skilled instructors staffed by the school. The Lifestyle Design College uses only the highest quality instructors. There were many instructors teaching each class, often times there was one instructor for each student. Because each instructor brought a unique set of skills and techniques to the class, I was exposed to a wealth of knowledge that I would not have otherwise experienced from a single instructor.



The success of the student is the primary goal for the instructors. An example of which I experienced during a late season fishing trip with Mr. Sakai-san on the Ketagawa river, a branch of the Tenryu river. It was a very cold and rainy day and the Amago trout was our target. We fished for about two hours together. I was very lucky and caught a nice Amago. After releasing the fish I asked Sakai-san to please go ahead of me because he had not yet caught a trout that day. But he said to me, "I am already satisfied watching you catch a trout". I was moved by this selfless and humble attitude. I had similar experiences and feelings from many of the other instructors in the class. They truly enjoy seeing students learn and succeed.

In September the class went on a two day fishing trip to the famous Nikengoya lodge near the headwaters of the Oigawa river. I was paired with Dr. Nobuyuki Kawano, a world famous neuro-surgeon and experienced fly fisherman. I often fished with Dr. Kawano because he is fluent in English. Over the course of the class he became sort of a mentor to me.

On our first day of fishing, Dr. Kawano called me from across the fast moving stream, "David! , come see if you can catch this trout, he won't take my fly." I waded cautiously towards the opposite bank staying downstream of the fish then walking up behind Kawano sensei. "David, there is a fish beside that rock but he refuses to take my fly, why don't you give it a try?" I tied on an Olive CDC caddis fly that I had made the previous night. I slowly approached the fish's position being careful to stay behind a large

boulder so I didn't scare the trout. The fish was only 5 meters away from where I was standing, so a simple reach cast was all I needed to put the fly just upstream of the lurking Iwana. The fly floated naturally down stream to a small eddy just above where the fish was waiting. I watched as the Iwana approached the fly slowly at first and then struck with a quick splash rise. I lifted the rod tip firmly and felt resistance as I set the hook. The #4 Orvis rod bowed nicely as the Iwana darted for deeper waters. I eased the fish to a shallow pool near my feet and gently lifted him for Dr. Kawano's inspection. "Well David! You just caught your first native Japanese trout, congratulations!". After several photographs, I released the small trout back into the stream with an "arigato gozaimasu".

Later that night at the lodge, we kampaied to my first trout and told fish stories late into the night. The catching of this first trout is a very special experience for me and will be one of my favorite memories of my life in Japan.

My wife and I are very thankful to the staff, instructors and fellow students of the Kakegawa Lifestyle Design College for their dedication and friendship. We are excited about the possibilities of 2008 and look forward to more adventures in Kakegawa.

カヤッキング / 川添美紀さん(受講生)

「カヤックINGと愉快的仲間たち」

「カヤックING(タバ氏)」の王国の一員となり、約15年ぶりにパドルを手に取りました。実は小学生の頃カヌーを習っていました。

ところで、カヌーとカヤックは何が違うかって皆さんはご存じでしょうか？そもそもカヤックは寒冷地域、カヌーは温帯地域のものだったそうです。カヤックはクローズドデッキでダブルブレードのパドル、カヌーはオープンデッキでシングルブレードのパドルという違いがありますが、基本的には一本のパドルで艇を操作するという点でお友達です。クローズドデッキつまり甲板部が閉鎖的になっているというのは水の流入を防ぎ防寒対策になります。



さて、話を戻すと一応経験あるし多少感覚は残っているだろうと思っていたのです。しかし、私が乗っていたのは静水のみ。川、海となると訳が違います。流れで意図しない方向へ力が働いて沈(転覆)し放題、時に岩や他の人の艇に衝突もします。これでも一応全国大会出場経験あったのに...。いいように自然に振り回されていたのですが、何度か失敗を繰り返すうちにコツを掴んでくるんです。そうすると気持ちいい、振り回されていたはずの自然に包まれる感じなのです。時に沈しても笑ってる。アドレナリンが出てくるのでしょうか。気づけばみんな笑ってる。

ダンディでお茶目な講師陣と、親切丁寧なスタッフに囲まれてプログラムは10月で千秋楽を迎えましたが、カヤックINGと愉快的仲間たちは永久に不滅です。

ダッチオープンクッキング / 齋藤金洋さん(受講生)

「D,Oプログラム続編に期待！」



このプログラムに参加して、良い道具と師範に出会えたと思っています。

代表的な鋳鉄製ダッチオープン(以下はD,Oに略)には、重い・そのくせ衝撃に弱く割れやすい・ちゃんと面を見てあげないと錆びてしまうといった注意事項があり、メンテナンスする際には非常に迷惑極まりない調理器具であり、また、それがD,Oのプログラム受講者全員の愛用のD,Oでもある。

だが、料理する際には最高のパートナーに変身し、焼く、蒸す、煮る、揚げるなどレシピさえ分れば俺に作れない物など無いのでは？と錯覚を与えてくれる。何しろ、火力を適度に調整し、材料をレシピに従ってD,Oに入れて蓋をすればかなりの確立で美味しい料理になってくれる。問題点は、食べすぎて太ったことくらいかな？

ダッチオープンの種類・用途の説明や、D,Oのメンテナンス方法であるシーズニングの仕方・屋外での炭火などでの調理方法など御自身の経験を惜しみなく公開してくれた講師の山村さんとスタッフの方がいなければシーズニングの段階で失敗・挫折していたと思います。

また、名称ほどには、使い方が普及していない道具なので、このプログラムは是非継続して欲しいし、続編も期待しています。



オーガニックファーミング / 井出伸容さん(受講生)

「誰か、土地をください」

4月に始まったオーガニックファーミングも早いものでもう12月、冬が大の苦手な僕ですが、収穫してきた野菜でほぼ毎日料理を楽しんでいます。野菜のおいしさを実感しています。ま、何が嬉しいって腹いっぱい食えることなんです。

農業については知識も経験も全く無く、初めは少々不安もありました。ただ、自然の中にいるのがとにかく好きで(晴れた日に限る)、実際にやってみるとコレは自分に合っているなあと、ハマってしまいました。夏場の作業だけは今思い出しても暑苦しいのですが、夏は双眼鏡片手にフラッと畑へ行き、草むしりの合間に木陰で野鳥観察なんかも楽しめました。ただの不審人物ですが通報されなかったのは良かったです。

土いじりをして気付いたのは、土中の生物の多さです。「土壌生物」とか「土の中は虫だらけ」と考えると不気味だけど、ミミズを始めとする生物達が土を育て野菜を育ててくれた訳で、土もまた生き物なんだなあとさえ思いました。ジャガイモを掘っていると冬眠中のシュレーゲルアオガエルがゲコッと出てきて、かわいくてニヤッと笑ってしまいました(やっぱり不審人物だ)。

野菜に挑戦してみたい気持ちになりました。12月、たくさんの収穫物に恵まれ、調子付いているんな野菜に挑戦してみたい気持ちになりました。

誰か、土地を下さい。

ネイチャーフォトグラフィー / 榛葉麻美子さん(受講生)

「写真って楽しい」

カレッジ、次は何にしようかな。デジカメを買って以来、気になる景色に出会うたび、思うがまま写真を撮ってきました。そこで、好きな写真をもっとうまく撮れるようになりたいと思い、悩むことなくネイチャーフォトに決定！

みんな一

眼レフの本

格派かと少

し不安では

が、コンパ

クトカメラ

の方もいて

安心。接写

のぼかしや

料理モード

など自分

のカメラの

機能を学

び、特に露

出のアンダ

ーは、私にと

って大きな

収穫となり

ました。今

まで撮りた

い色がとん

でしまうと

きもあり

ましたが、

アンダーに

撮るだけで

色が鮮やか

になるから

びっくり、

すごく役に

立っています。

みんなが撮

った写真を見

ると、同じ場

所で撮って

いても、一人

一人視点

が違うから

面白い。いい

写真を撮る

には感性を

磨く必要

があるな



また、自分の好きな景色だったのに、実際撮った写真は思っていたほど良くないこともありました。それは、漠然と見えている景色を撮ってしまったから。その景色のどこが気に入ったのか考えて撮ってみると、思った通りの素敵な写真になります。景色の切り取り方で印象ががらりと変わるので、自分の気持ちが伝わるような写真を撮ってみたいです。

魅力たっぷりの講師と頼りがいのあるスタッフ、そして個性溢れる受講生の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせてよかったです。ありがとうございました。小川先生、これからもついていきますので、よろしく願います！

おわりに

多くの皆さまに執筆のご協力をいただき、カレッジ通信 Vol.2 を発行できました。ありがとうございました。

また、この誌面については、冒頭にご案内したblogでもご覧いただけますので、どうぞ活用ください。(編集室より)